

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（4月1日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の多様な進路希望や興味・関心に応じた教育課程の改善を進める。 ②基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度の養成を目指した授業改善を進める。	①新学習指導要領の3学年にわたる実施に伴い、本校生徒の課題となる資質・能力を把握する。 ②基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度の養成を目指して授業改善に取り組む。	①日々の教育活動の状況、各種テスト、選択科目調査の結果等から本校生徒の課題を明確にする。 ②単元で身に付く力の明確化をテーマにして授業研究を行う。	①新学習指導要領の3学年に渡る実施に伴う本校生徒の課題を明確にできたか。 ②研究授業、授業互見等の授業研究をとおして、授業改善が進んだか。 ②学習到達度テスト、実力診断テスト等の結果において、学力の伸長が実現できたか。	①日々の教育活動の状況、学習到達度テスト、選択科目調査の結果等から本校生徒の課題の把握に努めた。 ②1、2学期に授業互見週間を設定して、単元で身に付く力を明確にした授業改善に取り組んだ。	①本校生徒の家庭学習時間は30分程度で、基礎学力を定着させるには不十分である。授業、ホームルーム活動、部活動、集会等のあらゆる場面で学ぶことの重要性を実感させて学習への動機づけを図る。 ①来年度の3学年の自由選択授業選択者が非常に少なく、生徒の実態に応じた教育課程への改善を図る。 ②多くの授業で単元で身に付く力を意識して授業を組み立てるようになった。電子黒板の有効活用等を通じて更なる授業改善に取り組んでいく。	①研究授業・授業互見等の継続的な実施など、授業改善に全校的に取り組んでいこうとする意欲を感じた。ただ生徒の家庭学習時間が1日平均20分台という調査結果から、最低1時間を定着させるよう、学校全体で意欲的に取り組んで行くことを期待したい。 ②調査結果をフィードバックして生徒の声を反映し、生徒が主体的に学習に取り組んでいけるような工夫も重要である。	①日々の教育活動の状況、学習到達度テスト、選択科目調査の結果等から本校生徒の課題の把握に努めたが、家庭学習の習慣が身に付いていないことが一番の課題である。 ②単元で身に付く力を明確にした授業改善に取り組んだ結果、多くの授業で改善が見られた。	①学校生活のあらゆる場面で学ぶことの重要性を実感させて学習への動機づけを図り、家庭学習の習慣を定着させる。また、生徒の実態に応じた教育課程への改善を検討する。 ②電子黒板の有効活用等を通じて更なる授業改善に取り組んでいく。
2	生徒指導 ・支援	①生徒一人ひとりの支援を組織的にしていく。 ②生徒を主体とした学校行事や生徒会活動を推進し、部活動を通して責任感や連帯感の涵養を図る。	①教育相談体制の充実を図り、生徒の学校生活における支援を行う。 ①交通ルール・服装・日常の生活の中でルール規則を守る。 ②学校行事や生徒会活動を、生徒が主体的に企画・運営し、責任感や連帯感をはぐくむ。	①学年会・グループ会議において教職員間で情報共有を行い、必要な生徒へ支援・指導を行い、SC・SSWとの情報共有するケース会議を開く。 ①学年・グループ・教科担当で注意・指導を行う。引続き、自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかける。 ②学校行事等でのリーダー育成を目的として企画・運営を支援する。課題等を明確にするため、定期的にそれらを共有したり検討したりする場を設定する。	①毎週の学年会・グループ会議に加え、月1回は情報の共有を行ない、当該生徒への支援・指導につなげられたか。また必要なケース会議が開けたか。 ①事故件数・定期試験毎服装点検指導、遅刻指導等の指導回数を減らせたか。 ②生徒が組織的、主体的に学校行事等することができたか。行事や部活などに取り組み、達成感を得られたか生徒へのアンケートで検証する。	①毎週の学年会での生徒の個別情報の共有、グループで各生徒についての情報共有を行った。生徒の支援についてSSWから報告があった。教育相談コーディネーターを中心にSSWG会議が開かれた。 ①服装点検、遅刻指導を必要な生徒に行っているが、同じ生徒への指導を複数回行っている。年度の始めより自転車事故件数は減少している。 ②生徒が一定程度、組織的、主体的に学校行事や生徒会活動に参加することができた。リーダーシップを発揮できる生徒も見られた。	①生徒が個別に抱える問題が多様化しており、SSWを通じて外部機関とつなげる必要がある生徒も多い。心のケアを必要とする生徒も増加して、不登校の生徒も増えている。SCによる相談も多い。 ①教員からの注意・指導以外に効果的な指導の在り方を考える必要がある。 ②行事や部活などへの取り組み状況や達成感等についての検証をさらに行う。また、中心となる生徒とコミュニケーションを引き続きとり、リーダーの育成を目指す。	①教員間で生徒情報を共有し、SC、SSWと連携し生徒に必要な支援を行い、改善の方向に導いている事がわかり安心した。またサポートドックを実施し、その結果について、担任と共有し、養護教諭、SC、SSWと連携をとっている報告があり、きめ細やかな生徒指導・支援がわかった。自転車事故が減少しているとの報告があり安心した。 ②地域の行事への参加については、徐々に進みつつあるので今後に期待したい。	①SSWG会議により生徒の個別状況に応じた授業・指導にあたれる事案もあった。 ①遅刻が常習化している生徒についての効果的指導を考え個々に指導にあたる。自転車事故は早い時期に安全教室を実施できた。 ②生徒が主体的に行事等に取り組むことができた。中心となる生徒の育成や取組や内容には課題が残る。	①生徒の状況は多岐にわたるため、物心共に早期の対応が必要である。 ①個々に集中して指導することで丁寧かつ効果的な結果へつなげたい。自転車の危険運転を防ぐために視覚に訴える研修を計画する。 ②中心となる生徒とコミュニケーションを取り続け、質問紙など様々な方法で振り返りを促す。また、内容についても振り返りを行い、満足度を高められるよう取り組む。
3	進路指導 ・支援	①生徒の自己実現に向けたキャリア教育を実践し生徒一人ひとりの主体的な進路選択と進路実現を図る。	①生徒の主体的な活動のためICT機器の積極的活用や各種模擬試験の活用により、適切な進路支援を図る。	①情報の収集や整理・分析の場面で効果的なICT機器の活用を支援する。 ①卒業後の進路について真剣に考える機会を提供するとともに、学習到達度テスト・実力診断テストを実施し、適切な進路支援を図	①効果的で適切なICT機器の活用を支援することができたか。 ①将来の進路実現に対して前向きな姿勢を持たせられたか。また就職について地域と連携した具体的な支援が行えたか。	①ICT機器を活用して情報を収集・精査するためのノウハウの蓄積を進めた。 ①近隣企業から講師を招いて職業講座を実施した。またインターンシップを実施、2・3年生10名が参加し職業について理解を深めた。	①上級学校への進学にあたり、HP上での学校案内やWeb出願が増えており、ICT機器を使いこなす技能を高めていく。 ①5年ぶりに近隣企業と連携した職業講座を開催できたが、これをさらに充実させていく。またインターンシップの参加者数を増やし	①生徒の進路実現に向けて「前向きな姿勢を持たせられたか」は重要な視点であり、生徒の主体性を引き出す支援と、5年ぶりに近隣企業を招いての職業講座を行ったとの報告があり、生徒にとってよ	①ICT機器を活用して進路実現の為の情報の収集や分析を行う機会が増え、一定の成果をあげた。 ①企業と連携した職業講座を再開できた。インターンシップに参加し職業	①適切で効果的なICT機器の活用のため一層の創意工夫とノウハウを蓄積していく。 ①職業講座はより内容を充実させていく。インターンシップの参加者数を増やしていく。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 11 日実施)	総合評価 (4 月 1 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			②特別募集生徒の進路実現に向けて教育、福祉、労働各機関との連携に努める。	①地域の企業と連携し職業について具体的に学ぶ機会を提供する。 ②特別募集生徒の1年生に対して上級学校・就職先などの進路見学を行う。2年生に対して就業体験学習(インターンシップ)を実施する。 ②外部資源を活用し幅広い学習内容を提供する。	①朝学習の取組状況の改善を行えたか。 ②関係各所と連携関係構築が図れたか。生徒の実態に応じた体験的学習活動が実施できたか。	①朝学習でスタディサブリ・イングリッシュを実施し、英検対策を行った。 ②特別募集生徒に対して、1学年は職業訓練機関の見学、2・3学年は近隣の協力企業で職業体験を実施した。	ていく。 ①3学年の朝学習では進学に向けてより有効に活用するために、各教科・科目の内容と関連する課題の配信を検討していく。 ②特別募集生徒の企業での職業体験や就労支援機関との連携はとれているが、3年生には就職につながるようにより支援していく。	りよい進路選択に役立つよう、コロナ禍以前のように充実されることを期待したい。 ②特別募集生徒の卒業後の報告会は、在校生徒にも伝えることで相互理解が深まり、良い取組みだと思う。	理解を深めた。 ①朝学習でスタディサブリ・イングリッシュを継続し、英検で2級・準2級の合格者が増え成果を上げた。 ②特別募集生徒に対して、関係機関との連携はとれた。障害者雇用での就職を希望する生徒の中で進路活動が遅れてしまった生徒がいた。	①3学年の朝学習では進路実現に向け、より効果的な活用を工夫していく。 ②障害者雇用で就職を希望する生徒に対しては早い時期に職業体験を行い、生徒の就職への意識を高めていく。
4	地域等との協働	①学校の魅力を積極的に発信し、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②地域との協働を推進し、地域の関係機関、企業研究所及び大学と連携した教育を実践する。	①学校の魅力を効果的に発信し、地域とのつながりを強化する。 ②地域との協働を推し、生徒の実践的な学習を支援する。	①学校説明会やHPを活用し、学校行事や生徒の活動を積極的に公開する。 ②生徒が実践的なスキルや知識を習得できるよう支援する。	①学校説明会やHPの反応を分析し、情報発信の効果を測定する。 ②生徒の学習活動への参加度や、地域との関わり方を観察・検証し明確に支援できたか。	①10月の第1回学校説明会では415名、11月の第2回学校説明会では322名、12月の施設見学会では83名の来校者があり、参加者に向け学校の情報を提供することができた。また、ホームページでも、必要な情報を随時更新することができた。 ②地域貢献活動として、9月に地域清掃を実施した。	①本校の魅力をさらに効果的に伝えるため、参加者からのアンケート等をもとに、令和7年度は部活動体験を実施し、学校説明会を3回実施できるよう計画する。 ②地域との連携が単発のイベントで終わらないよう、より長期的なパートナーシップを築けるような機会を増やす。	①2回実施した学校説明会の参加者は合計737名であり、アンケートの結果概ね好評だったことから、来年度は3回実施する方向であるとのことであった。 ②学校周辺地域との連携については単発で終わりがちなので、長期的な協働が求められる。	①学校説明会やホームページで学校の魅力を伝えることができた。参加者のニーズを把握し、魅力をより効果的に伝える工夫が必要である。 ②地域清掃が地域とのつながりを築く一歩となった。継続的な取り組みにつなげる必要がある。	①学校説明会でのアンケート結果をもとに、部活動体験を取り入れた学校説明会を実施する計画をたて、実施する。 ②長期的なパートナーシップを視野に入れた、継続的な地域連携の機会を増やす。
5	学校管理 学校運営	○安心安全な教育環境づくりを推進する。 ①エコの観点から省エネ、省資源の取組を行う。 ②防災学習の充実と被災時対応の検討を進める。	①省エネ、省資源に向けた実効ある取組みを推進する。 ②防災教育を通じて防災意識の向上を目指す。また、被災時の対応、体制について検討を進める。	①令和5年度はエアコン使用時期である7, 8, 9月の電気使用量が前年度比10～15%増であったため、夏の電気使用量前年度比5%減を目標に節電に取り組む。 ①省資源に向けた取組みとして、会議等におけるペーパーレス化に取り組む。	①夏の電気使用量削減において、数値目標を達成することができたか。 ①会議等でのペーパーレス化が実行できたか。 ②防災学習により防災意識の向上が図れたか。また避難訓練などの取組みが被災時を想定したものとして実施できたか。	①7, 8, 9月を「省エネ月間」として、エコの日ポスターで省エネ方法を紹介し、放送で自然環境委員が省エネを呼びかけたりした。その結果、8, 9月についてはそれぞれ電気使用量4%減を達成した。 ①職員会議や学年会議、グループ会議などの資料をTeamsでデータ共有することで、かなりペーパーレス化することができた。 ②11月に防災訓練を行い、被災時を想定したグラウンドへの避難訓練ができた。また、消火器の実践学習、DIG(図上訓練)、防災学習等も併せて行った。実施後の生徒アンケートの回答で、「災害に関する意識が高めることができた」と回答した生徒が81%であったことから、今回の取組みにより防災意識を高められたと考えられる。	①7月が前年より暑い日が多く、7～9月全体としては前年度と同様の電気使用量であった。また、エアコン使用時期の12, 1月の電気使用量は前年度比約8%増であったことを踏まえ、来年度は省エネの意識を高めることと、エアコンの管理方法を工夫したい。 ①更に会議以外でのペーパーレス化を検討する。 ②コロナ後に初めてグラウンドへの避難を実施したが、避難途中での交錯と避難に対する真剣味が欠けた部分が見受けられたことが課題となった。次回に向けては避難経路の見直しや避難前に防災学習を行うなどの改善方法を検討する。	①電力使用量を数値目標にして具体的に示しているのは分かりやすいと感じた。また、猛暑などには目標があっても、使用している点は生徒の健康管理に良いと感じた。 ②11月に防災教育として、避難訓練を実施したとの事であった。借用した消火器で使い方を学び、DIG(図面上の訓練)やビデオ視聴も行い、防災意識を高める事ができたが、避難訓練については、緊張感のない生徒も見受けられたとのことであった。防災教育を充実させ危機意識や速やかな避難に向けた取組みを期待したい。	①夏季のエアコン使用時期では「省エネ強化」の取組みにより8, 9月において電気使用量を削減することができた。冬季は電気使用量増となり課題が残った。 ①会議ではデータ共有を行いペーパーレス化を推進することができた。 ②防災訓練では避難訓練と消火器訓練を実施し、生徒の防災意識を高めることができたが、避難時に経路交錯や生徒の避難意識の欠如が見受けられたことが課題となった。	①夏、冬、エアコン使用については省エネに対する意識を高め、無駄をなくすための工夫を検討し、学校全体で省エネに取り組めるようにする。 ①会議以外の部分で更にペーパーレス化ができるところを検討する。 ②避難訓練より先に防災学習を行うことで防災意識を高め、訓練の意義を認識させる。また経路の見直しも行う。

[illegible]